

視点・論点

公園をPAC3ミサイル基地になんかさせない!

杉原浩司

地上配備型迎撃ミサイル「パトリオット3」(PAC3)による弾道ミサイル迎撃を想定した都心での「移動展開訓練」が、一月一四日深夜から遂に始まった。一部で報じられていた通り、「新テロ特措法」＝給油新法の衆議院での強引な再可決が事実上の「ゴースイン」とされたようだ。

その最初の舞台に選ばれたのは環境省所管の新宿御苑。人間の部隊が登場するとの予想に反して、PAC3の配備が目前に迫っている横須賀の空自武蔵基地の高射隊員が、アンテナ・マスト装置や無線中継装置、電源車を普段は閉鎖されている正門から御苑内に搬入した。今回はPAC3発射機の搬入はなく通信テスト中心のため、武山のPAC2機材を転用する形となったようだ。奇しくも、昨年一〇月一七日に有明で行われた「危機管理産業展」で私が間近で目撃したのが武山のPAC2部隊だった。

バラ園近くの広場に、高さ約三〇メートルのアンテナ二本が、地面に打ち込んだワイヤで補強され一時間近くかけて設置された。そして、市ヶ谷の防衛省や府中の空自航空総隊司令部(一〇年には横田に移設)との交信や周辺の高層ビルが通信を妨害しないかどうかの点検などをしたらしい。また、展開予定地を確定するための測量も行ったようだ。「新宿のビル街の夜景が間近に広がる閉園後の御苑内はものしい空気に包まれた」と東京新聞(一月一五日夕刊)は伝えている。午後八時から始まった訓練は翌朝一〇時頃まで続けられた。

仲間からの新聞記事の転送メールで知った時には訓練は終わっていた。一五日の夕刊各紙の多くが一面に大きな写真入りで報じたが、批判的論調抜きでほとんど政府広報のような形だった。

今後、今回の移動展開演習の「本丸」とも言っべき、東京都が管理する都立公園(代々木公園や晴海ふ頭公園など)への展開が迫っている。石原知事体制下の東京都は、「都民の生命・財産を守るために国に協力したい」(矢野

一郎・総務局総合防災部企画調整担当副参事/国民保護担当)との姿勢をとり、都市公園法や都立公園条例にも抵触する公園の軍事使用に「ゴースイン」を出すことを表明している。近日中に行われる防衛省からの文書による正式要請(日時と場所も含む可能性あり)に対して、あっさり許可を出すことが予想される。

しかも、防衛省は、事前の公表を一切差し控えるよう都に指示し、都側もこれを受け入れている。公園の地元の区に対してさえ情報が伝えられないという情報封鎖の中で、秘密戦時訓練がまかり通るうとしていいる。今回の移動展開演習を直接担当する防衛省運用企画局事態対処課は、問いあわせに対して、相変わらず「部隊運用に関わる」「安全かつ円滑な訓練実施のため」を理由に挙げ、情報隠しを続けている。「知る権利」の前に立ちかかると軍事の壁を壊さなければならぬ。

ミサイル防衛(MD)導入の脚本と演出を担った張本人である守屋武昌前防衛事務次官が逮捕され、捜査線上に浮上した軍産癒着の「フィクサー」秋山直紀が目をつけたのもMDだった。それでもなお、MD配備のスピードはほとんど減速していない。今回の移動展開演習は軍産複合体の巻き返しであり、MDという最大級の軍事利権を手放さないという強い意志の表れでもあるだろう。

こそこそと夜陰にまぎれて兵器を運び入れ、翌朝にはそそくさと撤収する形の訓練は、かなり抗議しづらいものではあるが、情報封鎖の壁をこじ開けることをあくまで追求したい。都に対して公園使用不許可の要請も集中してほしい。また二月三日午後には、昨年二月二日に行った一都四県のPAC3配備反対交流集会の枠組みを活かす形で、防衛省への抗議デモを行う。ぜひ多くの皆さんが集まってほしい。

(すぎはら・こじこ核とミサイル防衛にNOーキャンペーン)